

トレンド提言

—横綱^{きせ}稀勢の里の相撲道に学ぶ—

3月26日、大相撲春場所の千秋楽、相撲ファンは傷だらけの新横綱稀勢の里の劇勝に歓喜し感動した。

13日目に日馬富士戦で左肩付近を負傷し、けがを押して出場した稀勢の里は本割で、1敗の単独首位だった照ノ富士に「突き落とし」で追い付いた。直接対決で本割、決定戦とも勝って逆転優勝だった。

1月25日、初場所で30歳にして日本人出身力士としては19年ぶりの待望の横綱となったばかりで今場所は新横綱の連続優勝が期待されていただけに当人はじめ日本国民のよろこびは^{ひとしお}一入だった。

最近の政治、経済、世相をみると感動も感激もない。

無駄と思われるような審議、やりとり、発言などが国会などではみられる。

稀勢の里に学ぶことは多い。

- ・ **基本に忠実**……心技体を鍛え、整えるため四股を踏み続けた。
人間の行動は自由でありたい。そのためには基本・原則を守ることが大切。これが人の道だ。
- ・ **生活面**……真面目、素行良く「角界の風紀委員」と評されている。
- ・ **勝負**……勝っても負けても軽率なパフォーマンスはせず
「男は黙って勝負する」一男の美学だ。
- ・ **プロ意識**……優勝した翌日から稽古に励む。
- ・ **責任感の強さ**……自分のおかれた立場（横綱）に責任をもって全うする。
- ・ **利他の心と感謝の心**……彼の相撲はファンを楽しませようとする利他の心と感謝の意が込められている。政治家のみなさん、大いに学んでいただきたい。

「待ち侘びし 国産横綱 稀勢の里
おしんの美学で 相撲道究めん」